

# 令和元年 第4回教育委員会定例会議 会議録

1 日 時 令和元年8月21日(水)  
開会 13時30分  
閉会 14時20分

2 会 場 金沢市庁舎 2階 201会議室

3 出席委員(5名)

教 育 長	野 口 弘
教 育 委 員	田 邊 俊 治
〃	岡 能 久
〃	大 島 淳 光
〃	木 村 陽 子

4 欠席委員(2名)

教 育 委 員	早 川 芳 子
〃	丸 山 章 子

事務局	教育次長(兼)学校教育部長	高 村 政 博
	担当部長(兼)教育総務課長	加 藤 弘 行
	教育総務課課長補佐	松 田 潤一郎
	担当部長(兼)学校職員課長	羽 場 政 彦
	学校職員課担当課長・管理主事(兼)課長補佐	田 村 創
	担当部長(兼)学校指導課長	寺 井 義 春
	学校指導課担当課長(兼)課長補佐	青 山 雅 幸
	市立工業高校事務局長	新 出 光 昭
	生涯学習部長	中 坂 暢 江
	生涯学習課長	村 田 英 彦
	図書館総務課長	池 田 光 穂
	(兼)玉川図書館長	
	(兼)近世史料館長、城北分館長	

5 案 件

- 非 議案第15号 金沢市立小学校及び中学校通学区域審議会委員の委嘱について  
(教育総務課)
- 非 議案第16号 令和元年度金沢市議会9月定例会提出予定案件について  
(教育総務課)
- 報告第12号 金沢市立小・中・高等学校におけるブロック塀の安全対策等の実施状況について  
(教育総務課)
- 報告第13号 金沢市立小・中学校の勤務時間記録の集計結果(令和元年度4～6月分)について  
(学校職員課)
- 報告第14号 令和元年度(平成31年度)全国学力・学習状況調査及び県基礎学力調査の結果について  
(学校指導課)
- そ の 他

- (1) 第40回金沢少年の翼東北派遣研修の報告について
- (2) 次回の定例会議の日程について

6 議事の経過等 以下のとおり

野口教育長の開議あいさつに続いて、傍聴希望者4名について協議し、傍聴を許可した。次に、議事録署名委員に田邊委員を指名した。本日の議題について野口教育長が議案第15号、議案第16号を非公開とするよう発議し、全会一致で非公開とすることを決定した。

審議に入り、報告第12号、報告第13号、報告第14号について説明・質疑応答が行われ、原案どおり承認した。また、9月の定例会議の開催日を次のとおり決定した。最後に議案第15号、議案第16号について非公開で審議に入り、原案どおり承認し、閉会した。

\* 9月の定例会議の日程：令和元年9月25日（水）13：30～

[案件の説明及び諸報告について]

案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

[主な質疑・応答の内容について]

○ 報告第12号 金沢市立小・中・高等学校におけるブロック塀の安全対策等の実施状況について（教育総務課）

（説明の概要）議案書7ページ。昨年6月に大阪で発生した事故を受けて、必要な点検や安全対策等の措置を行ってきた。過日、全国的な状況が文部科学省から発表されたこともあって、今回は現在の状況について改めて整理した上でご報告する。安全点検については1に記載のとおり、大阪での事故を受け、昨年6月に小・中・高等学校敷地内の全てのブロック塀について応急危険度判定士の有資格者である本市の営繕課職員と教育総務課職員により実施している。

現在の状況を2の表にまとめた。ブロック塀を有する学校は58校、そのうち安全性に問題のない学校は28校、緊急性はないが、一部にひびや欠けなど軽微な劣化が見られる学校は21校である。また、通学路等に面しており、高さ超過やクラック、傾きが見られ、緊急に対策が必要であったものは9校で、これらは全て昨年度中に撤去、またはフェンスへの改修などの安全対策を実施している。また、学校には、児童等が危険なブロック塀に近寄らないよう、指導の徹底も依頼しているところである。

今後は、安全性に問題のない28校の学校については年度内を目途に、できるだけ早くブロック塀内部の点検を実施していく予定である。また、緊急性のない21校については、施設の法定点検の結果を踏まえて修繕を実施していくこととしている。

田邊委員

安全性に問題のない学校が28校あるということと、年度内に内部点検を実施するということは、安全性には問題ないけれども中身をしっかりと見なければいけないという点で、イメージに齟齬があるような気がするのですが、そのあたりはどうなのでしょうか。

加藤教育総務課長

昨年6月の大阪での事故を受けて、文科省から必要な緊急点検と安全対策実施に係る通知が発出されました。その中では、点検を行った上で、安全性に問題のないブロック塀についてはさらに内部点検を求めています。外観上の問題がなくても、例えば内部の鉄筋に問題があるようなことは外部から判断できないので、さらに念押しするという意味合いであると認識しています。

また、一部に劣化が見られる学校については、逆にいえば内部の点検は求められていないわけですが、ひびや欠けの状況から適切な修繕方法の検討をする中で、さらに詳細な点検・調査も必要になると思います。適宜適

切に対応したいと思っています。

田邊委員

外見上問題がなくても、さらに丁寧に点検し確認していただければと思います。地震が起きたときには、どうしても高いものに寄り添いがちという傾向があると思うので、地震が起こったときの子供たちへの指導をぜひ併せてお願いしたいと思っています。

加藤教育総務課長

昨年、必要な点検や修繕等の話を各学校に説明した際に、併せて校長会議の場を通して児童等が危険なブロック塀に近寄らないよう、指導の徹底を依頼したところであり、学校でも共通の問題意識を持ち、指導を徹底しているものと理解しております。しかしながら、いつ起こるか分からないことですので、また機会を捉えて学校にもお願いしていきたいと思います。

### ○ 報告第13号 金沢市立小・中学校の勤務時間記録の集計結果（令和元年度4～6月分）について（学校職員課）

（説明の概要）議案書9ページ。この調査は全小・中・高等学校で行っており、3年目になるので、3年間の推移も示した。今年度の対象者数は小・中学校合わせて2,034名であり、対象職種は昨年度と同じである。

3の「時間外勤務時間の平均」。4～6月の1カ月当たりの時間外勤務時間は、小学校は52時間57分、昨年度同時期比で5.4%減、中学校は74時間38分、同じく6.8%減となっており、小・中学校ともに平成29年度から減少傾向にある。時間外勤務時間を勤務日と週休日・休日に分けると、いずれも昨年度同時期比で減少しているものの、週休日・休日の時間外勤務時間については、依然として中学校が小学校より16時間33分多くなっている。

4の「時間外勤務時間の分布」。時間外勤務時間が、長時間の過重業務とされる月80時間を超える者の割合は平成29年度から減少しているが、小学校は100時間超と80～100時間を加えた9.1%で、昨年度同時期比で6.7ポイント低く、同じく中学校では40.9%で、昨年度同時期比で8.0ポイント低くなっている。依然として中学校において、約4割が80時間を超えている。

5の「教頭の時間外勤務時間」。職種別の時間外勤務時間については、これまでも教頭が最も多かったことから、今年度より教頭の勤務時間推移を示す。今年度の4～6月において、小学校では85時間2分、中学校では82時間22分となっており、減少傾向にあるものの小・中学校ともに1カ月80時間を超えている。

6の「4～6月の職種別・年齢別の集計」。職種別において、小学校では昨年度同時期比で校長、養護教諭の時間外勤務時間が増えているが、その他の職種については減っている。中学校では主幹教諭、養護教諭、栄養教諭等、事務職員の時間外勤務時間が増えているが、その他の職種については減っている。

年齢別においては、小・中学校ともに30歳以下の教職員の時間外勤務時間が多く、小学校の61歳以上の再任用教職員を除き、全ての年代において昨年度同時期より減少している。また、小学校では61歳以上の再任用教職員を除き、年代による差は比較的小さいが、中学校では年代が若くなるほど時間外勤務時間が多い傾向となり、この傾向は平成29年度から変わっていない。金沢市立学校における、教職員が本務に専念するための時間の確保に向けた取り組み方針の実践2年目を迎えており、総じて時間外勤務時間は縮減傾向にあるが、80時間を超える長時間勤務者が一定数おり、今後も学校と連携を図りながら具体的な取り組みを着実に取り組んでいく。そのためにまず業務の効率化・平準化を進め、月100時間を超える教職員をゼロにする。

木村委員

対策を練って効率化を図るといっても、教職員が行う業務は変わらないですよ。どうすれば効率が良くなるのでしょうか。誰かを補充することなのでしょうか。

羽場学校職員課長

教職員はこれまで、時間の感覚に少しルーズだったということもあり、まず時間に対して意識化させています。「この仕事は〇時までには終えよう」というふうに目標を決めること、もう一つは効率化ということで、例えば教材研究を同じ学年の先生方で、例えば「私は国語科をやるから、あなたは社会科をして」というふうに、教材研究したものの共有化を図り、今まで一人が国語科も社会科も行っていったような部分を共有化し、電子ファイルの保存なども統一化して、誰が見てもどこにどのファイルがあるか分かるようにすることで効率化を図っています。

野口教育長

おしなべて時間外勤務時間はこの3年間、少しずつ減少しており、成果が出始めていると思います。

田邊委員

先生方が意識され、学校としての取り組みが行われていることで改善の方向に寄与していると思います。一方で、特に中学校で部活動の指導員を配置していかなければ、80時間という目安は達成できても、これ以上の削減、つまり45時間という次の目標を考えると、どうなのだろうという気がします。

80時間というのは、県として3年間でぜひ取り組んでいこうという施策なのですが、それがゴールではないと考えると改善できない気がします。次なる目標というのか、80時間が達成できればよしとするものでもないということだと思います。適切な勤務環境を考えると、さらに減らすことに向けて何をするのかを考えていく必要があると思うので、良くなったという印象はありますが、次なる目標をぜひ考えていただきたいと思います。

羽場学校職員課長

さらなる削減のために、小さなことでも、あるいは少しの時間でも積み重ねが非常に大事だと思っています。小さなことでもできるところからやっていきたいと考えていますし、前にも少しご説明しましたが、事務の共同実施などもモデル事業として行っています。市町の教育委員会で統一した統合型校務支援システムの導入なども検討に入っているので、80時間という目標が次は45時間になるようにぜひ努力していきたいと思っています。

#### ○ 報告第14号 令和元年度（平成31年度）全国学力・学習状況調査及び県基礎学力調査の結果について（学校指導課）

（説明の概要）議案書12ページ。この調査は、小学校6年生と中学校3年生を対象に昨年度と同様、全数調査で行われた。教科に関する調査は、国語、算数・数学に加え、本年度は英語を実施した。昨年度までは主として知識に関する問題のA問題と、主として活用に関する問題のB問題に分かれていたが、本年度からA問題とB問題を一体的に問う形式の調査を実施している。また、今年度初めて中学校英語の調査が実施され、教室での「聞くこと、読むこと、書くこと」の3技能の調査に加え、パソコン室での「話すこと」の調査を実施した。さらにこれまでと同様に、児童生徒、学校が回答する生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査も行われた。

2の「各教科の平均正答率」は、本市実施分と県および国実施分について記載している。国との比較では、小学校・中学校の全ての実施教科において3～7ポイント上回る結果となっている。また、県との比較では、全ての調査において同程度となっている。なお、英語については「聞くこと、読むこと、書くこと」の3技能の市や県の結果は提供されているが、「話すこと」の結果については国の結果が参考値として示され、各学校や調査を受けた生徒にのみ提供されており、市や県の結果は国から提供されていない。

児童生徒に対する質問紙調査は、小学校が58間、中学校が69間、学校に対する質問紙調査

は、小学校が64問、中学校が80問あった。その中で金沢型学校教育モデルに関する質問を中心に一部抜粋した。

「(1) 全国と比較して、よい傾向が見られる質問」については、児童生徒質問紙の学習に関することに関しては、国と比較した場合、肯定的な回答が高い傾向が見られる。その中でも特に、「2 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする」「3 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」に対する肯定的な回答の割合が高く、大変良い傾向が見られると捉えている。これらは金沢型学習スタイルの「自分で考える」「自分の考えを伝え合う」や「みんなで考えを深める」を意識した授業に取り組んできた成果として捉えることができると考えている。また、1の地域の行事への参加、4の総合的な学習の時間への取り組みについても国を上回る結果であり、これらも金沢型学習プログラムで「金沢ふるさと学習」や「金沢『絆』活動」等に力を入れて取り組んできた成果の一つと考えている。

学校質問紙の状況においても、1、2の金沢型学習スタイルに関する質問や3、4の小学校教育と中学校教育の連携に関することについては、全てにおいて国を大きく上回り、小・中学校ともに大変良い傾向が見られ、本市の教育施策の成果として捉えている。その他、5の教員研修等に関することについては、小・中学校ともに国を上回っており、本市の教員が大変熱心に研修に取り組む、学習指導の充実に努めていることが分かる。6の家庭や地域との連携に関することについては、保護者や地域と協働した活動が積極的に行われていると捉えている。

一方で、(2)にあるように、「全国と比較して、課題と見られる質問」も幾つかある。「1 自分には、よいところがある」「2 将来の夢や目標を持っている」については改善の傾向が見られるが、依然として2については小・中学校とも全国と比較して若干下回っている。今後とも夢や目標を持って何事にも前向きに取り組んでいく子供たちを育てるため、キャリア教育の充実を図るとともに、児童生徒を褒め、認め、価値づけ、励ますことで自己肯定感を高めていくことが大切であると考えている。

議案書14ページ。県の調査は小学校4年生、6年生、中学校3年生の全児童生徒を対象に行われた。各教科の平均正答率は、県と比較して小学校6年の社会、中学校3年の社会、理科で同程度だったが、小学校4年の国語、算数、小学校6年の理科で県をやや下回る結果となっている。この調査結果は校長会議や学力向上担当者連絡会で知らせ、課題の見られる教科に対して2学期以降、重点的に指導する単元を明確にするなど、学校の実情に即した改善策を立てるよう指導していく。また、本市としては今年度の学力調査等の結果を活用しながら、新学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善を推進し、児童生徒に求められる資質・能力の育成に努めていくことが大切であると考えている。今後も金沢型学校教育モデルに基づく教育活動がより効果的に行われるよう、学校訪問等を通じて指導していきたい。

大島委員

今年度初めて中学校英語の調査の中で「話すこと」の調査が実施されたということで、パソコン端末を利用したと書いてあるのですが、具体的にはどういったやりとりをするのでしょうか。

寺井学校指導課長

パソコン室にはヘッドフォンとマイクがセットになったヘッドセットがあり、生徒は各パソコンから音声と画像で流れてくる質問に対して一人一人答えて、それを録音したものを学校で取りまとめて文部科学省に提供します。

実際の質問では、例えば画像にイラストが出され、矢印で7月2日が提示されていて、「この人の誕生日はいつですか」という質問が流れてきたら、それに対して英語で答えます。あるいは、画像のイラストについて「彼らは何をしていますか」と尋ねられたら、英語で「テレビを見ています」などと答えます。それらを録音しておく形で調査が行われました。

田邊委員

全国学力調査の結果について全国と石川県、金沢市の平均値が示されて

いて、併せて質問紙調査は全国との比較だけが示されていますが、これは県との比較もしようと思えばできるのですか。

寺井学校指導課長 本市の分と国、県の分が提供されているので、報告書で取りまとめた分については、国、県と本市で比較できるような形で取りまとめています。

田邊委員 質問紙調査の結果は、県と比べてもほぼ同じような傾向ですか。

寺井学校指導課長 抜粋でお示した件については、基本的には県を上回っていますが、その他の質問については、県と同程度という状況の質問が大変多い傾向にあります。

田邊委員 自己肯定感や将来への動機づけのようなものが課題だと指摘されていました。数字そのものは微妙な数値なので、とても高い地域があるということはあまりないとは思いますが、課題は課題ですので、見据えて取り組んでいただければと思います。

寺井学校指導課長 前年度と比べて、やや課題の見られるところもありますが、1番と3番の質問については本市が大変重視しているところですので、学校教育活動全体を作りながら、キャリア教育も含めそれぞれの学校で教科学習等を通じて、子供たちの自己肯定感を高めていきたいと思っています。

岡委員 自己肯定感を高めるための教育指導は普段から行っておられますが、もう少し具体的にどういった形のことを学校現場ではしているのでしょうか。

寺井学校指導課長 昨年度私がいた学校でも行った内容ですが、総合的な学習の時間を使って6年生で、保護者の協力を頂いて、弁護士や医師、一般企業に勤めている方などをお招きし、どんな仕事があるのか、将来どんな方向に進んでいったらいいのかということ、年間を通して考える授業を展開しました。昨年度4月調査のとき、私がいた学校は市の平均よりも大変低い数値が出ていましたが、3月に同じ調査をもう一回行ったときには4月を上回る結果が得られたので、やはり子供たちに将来や目標を見据えられるような具体的な指導を意図的に行うことで、子供たちの考え方もさらに充実していくのではないかと思います。

このような取り組みは、他の学校においても、軽重はありますがそれぞれで取り組んでいるので、狙いを明確にして、今回の調査結果を踏まえながら、各校が具体的な取り組みに反映させていくよう、また指導していきたいと思っています。

木村委員 「全国と比較して、課題と見られる質問」に関してなのですが、金沢の人はちょっと控えめというか、謙虚というか、あまり自分をアピールしないところが表れていると思います。子供たちは何かしらの興味を持って、だんだん夢などがはっきりしていくと思うのですが、今はまだ、まち全体がそういう雰囲気があるような気がして、そういう面がこの数字に出ていると思います。でも、これはあまり心配しなくてもいいことかもしれませんし、いずれは自分で夢や目標を見つけられるのではないかと思います。

寺井学校指導課長 委員ご指摘のとおり部分もありまして、昨年度自分が勤務していた学校の6年生に調査が終わった後に聞いたら、「自分で『いいところがある』と答えづらい」という声も聞きました。それから、将来の夢や希望が一つに絞り切れていないので、回答に躊躇した子もいるのではないかと思います。

した。中学生に聞くと、その辺はもっとシビアに考えていて、「良いところがあるか」と聞かれると自分なりに自分に対して厳しく判断する子が多いのではないかとも思います。ただ、いずれも自分の将来について真剣に考えていることは事実ではないかと思っていますので、子供たちの自己実現が図られるような教育の充実に努めてまいりたいと考えています。

田邊委員

今の点は、金沢の子供たちのみならず、国際調査等でも日本の子供たちが他の国と比べて低い傾向があります。全国と比べて金沢はどうかという見つけ方も必要ですが、国としてどういう施策でこのあたりの底上げをしていくのかというのは全体の課題でもあります。

木村委員

文科省の取り組みになりますね。

田邊委員

そうですね。そういうところもあると思います。でも、着実な取り組みが必要ですから、ぜひ取り組んでいただきたいと思います。

寺井学校指導課長

国際調査等についても、確かに委員がご指摘されたとおりになっています。新学習指導要領について文科省でも示されているように、来年度からキャリアパスポートというものを学校で具体的に指導していきます。これは、低学年のときから自分を振り返るようなものを年度ごとにずっと送っていくというものです。そのモデルケースのようなものが県から示されていますので、本市の実情に合わせたものでどの程度指導できるか今後検討し、小学校は来年度から全面実施になりますので、こういうキャリアパスポートも有効に活用しながら、子供たちが夢や希望を持てるような教育の充実に努めていきたいと考えています。

#### ○ その他（１） 第４０回金沢少年の翼東北派遣研修の報告について

（説明の概要）議案書１５ページ。この事業は、研修地の大自然や文化の下で視野を広げるとともに、団体生活を通して友愛や協調の精神を学ぶための青少年の派遣研修である。本研修は令和元年７月２１～２５日の４泊５日で行った。研修先は、今回は東北（岩手県、宮城県、福島県）である。参加者は団員２３名を含め、全体で３５名である。目的は、団体生活を通じた友愛と協調の精神の涵養などの３点である。

これまでの研修全体の内容としては、まず事前研修を６月下旬にキゴ山ふれあい研修センターで、７月１４日に長土堀青少年交流センターで行った。本研修については、下の写真もご覧になりながら見ていただきたい。７月２１日は中尊寺などを見学し、２２日は国立天文台水沢キャンパスの見学、関上の東日本大震災被災地訪問などを行った。２３日は名取市スポーツ少年団の子供たちとの交流やＪＡＸＡ角田宇宙センターの見学を行った。２４日は磐梯山登山をした。最終日の２５日は、会津藩校「日新館」の見学と会津若松市内での班別自主研修を行った。事後研修は、８月４日に長土堀青少年交流センターに集まって行った。

野口教育長

これまでは北海道と九州で研修していましたが、今年は初めて東北を研修先としました。

田邊委員

参加した子供たちの感想があればお願いします。

中坂生涯学習部長

私は団長として参加したので、そのときに聞こえてきた子供たちの声を紹介したいと思います。磐梯山登山では、今まで全員が山登りをしたことがなかったので、「ひどい、ひどい」と言いながらも全員で登頂することができ、下りは和気あいあいな状態で登山を楽しんでもらえたと思います。「ふるさとの山も登ってみたいね」「白山にもぜひ挑戦したい」という声も上がっていました。

これまで子ども会などで参加者の立場で加わってきた子供たちが多かったのですが、一緒に行ったリーダーたちの姿を見て、「私たちもあんなふう  
にリーダーとなる活動がしてみたい」という声も聞こえましたし、「小さな  
子の面倒も自分たちから見ていくように心掛けたい」という声もありまし  
た。少年の翼は原則1回限りの参加なのですが、「2度3度参加できるよう  
になるといい」という声も上がっていたことをご報告したいと思います。

野口教育長

今回の行程では、金沢とのつながりが深い場所をかなり選定されている  
と思いますが、訪問してみて金沢の子供たちは、そういった金沢との接点  
を何か感じていましたか。

中坂生涯学習部長

まず中尊寺を見学したのですが、そこには金色堂というきらびやかな部  
屋があり、「そこで使われている箔は金沢のものなのだよ」というガイドさ  
んの説明があったので、「身近なものがこんな遠くに来て使われているの  
か」というふうに、地元の産業に対する誇りを持ってたと思っています。

また、会津若松の会津藩校「日新館」では会津藩と加賀藩とのつながり  
が説明されました。「遠い昔のことだけれども、志を持った子供たちがこ  
こで学んでいたのだな」という感想を持ち、「ならぬことはならぬものです」  
というのを合言葉のように語っていたのが印象的でした。

以 上

## 会 議 録 署 名

教 育 長 \_\_\_\_\_ 署 名

教 育 委 員 \_\_\_\_\_ 署 名

(田邊委員)

[非公開議案の審議結果について]

○ 議案第15号 金沢市立小学校及び中学校通学区域審議会委員の委嘱について（教育総務課）

金沢市立小学校及び中学校通学区域審議会委員の委嘱について

金沢市立小学校及び中学校通学区域審議会設置条例第3条の規定により、次のとおり金沢市立小学校及び中学校通学区域審議会委員を委嘱します。

1 委員の委嘱

区 分	氏 名	所属団体・機関及び役職	備考
住民自治 組織代表	西 野 茂	金沢市町会連合会会長	再任
	安 嶋 弘 子	金沢市校下婦人会連絡協議会副会長	再任
学校長	新 村 裕 二	金沢市立諸江町小学校校長	再任
	荒 井 浩 志	金沢市立清泉中学校校長	再任
教育関係 団体代表	宇 田 直 人	金沢市PTA協議会会長	再任
	相 羽 大 輔	金沢市PTA協議会副会長	再任
知識経験を 有する者	関 戸 正 彦	金沢市公民館連合会会長	再任
	俵 希 實	北陸学院大学教授	再任

2 任期

令和元年8月23日から令和3年8月22日まで（2年）

3 理由

任期満了に伴う新たな委嘱

○ 議案第16号 令和元年度金沢市議会9月定例会月議会提出予定案件について（教育総務課）

審議結果についても非公開

以 上